

- 問1 16世紀後半、甲斐や信濃の一部では「甲州ます」と呼ばれる独自の枅が使用されていました。中央の京で使われていた標準的な枅と容量が異なる「甲州ます」のような度量衡が地域ごとに存在していたことは、当時の政治体制についてどのようなことを示唆していますか。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
1. 足利義昭が強力な権力によって全国の度量衡を統一し、各地域の経済活動を完全に管理していたこと
2. 海外貿易を円滑に進めるため、輸出入の拠点ごとに異なる計測単位を用いることが幕府より推奨されていたこと
3. 天皇を中心とした中央集権的な政治体制が、全国的な経済基準を統一するまでには至っていなかったこと
4. 農業技術が未熟であったため、収穫量を正確に測るための全国一律の基準を作る必要性がなかったこと
- 問2 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 荘園
2. 領国
3. 幕領
4. 藩
- 問3 16世紀の戦国時代、室町幕府の権威が衰退する中で、各地の実力者である戦国大名が自らの領国を独自に統治するために制定した法律を何というか、名称を答えなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 分国法
2. 公事方御定書
3. 豊田永年私財法
4. 御成敗式目
- 問4 1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. ヴァスコ・ダ・ガマ
2. マゼラン
3. マルコ・ポーロ
4. フランシスコ・ザビエル
- 問5 戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものととして、正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。
2. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。
3. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。
4. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。
- 問6 戦国時代を象徴する「下剋上」という言葉の意味や背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 幕府が守護の権限を強め、地方の国人や農民を厳しく統制しようとしたこと。
2. 朝廷が有力な武士に官位を与え、伝統的な身分秩序を維持しようとしたこと。
3. 農民が団結して自治組織を作り、守護による年貢の取り立てを拒否したこと。
4. 身分の低い者が實力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。
- 問7 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、實力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 下剋上
2. 一向一揆
3. 御成敗式目
4. 尊王攘夷
- 問8 16世紀半ば、種子島に漂着した西欧人との交流によって日本にもたらされた武器について、その名称と伝えた人々の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 弓矢を中国（明）の商人が伝えた。
2. 日本刀をオランダ人が伝えた。
3. 火縄銃をポルトガル人が伝えた。
4. 大砲をスペイン人が伝えた。
- 問9 日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何といいますか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. ルネサンス
2. 十字軍
3. 産業革命
4. 宗教改革
- 問10 戦国大名が制定した「分国法」には、家臣同士が私的な理由で争うことを厳しく禁じる「喧嘩両成敗」の規定が多く含まれています。このような規定が多くのだ名によって導入された背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。
2. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。
3. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。
4. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。
- 問11 16世紀半ば、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に新しい兵器が伝えられた出来事について、その後の歴史に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
1. この兵器の伝来により、騎馬武者が名乗りを上げて一対一で戦う伝統的な戦術がより一層重視されるようになった。
2. 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。
3. この兵器は元軍が日本に襲来した際に初めて伝えられたもので、鎌倉幕府が滅亡する直接の原因となった。
4. この兵器は朱印船貿易が最も盛んだった江戸時代初期に初めて日本にもたらされ、幕府の軍勢力を支えた。
- 問12 1549年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して日本に伝えたキリスト教について、その宗派と布教を担った組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
1. プロテスタント イエズス会
2. プロテスタントー清教徒（ピューリタン）
3. カトリックーイエズス会
4. カトリックー十字軍
- 問13 日本に鉄砲が伝来した16世紀半ばの世界情勢について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。
2. アメリカでリンカーンが大統領に就任し、南北戦争が勃発していた。
3. ムハンマドがイスラム教を創出し、アラビア半島の統一を進めていた。
4. チンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の広範囲を支配していた。
- 問14 1543年に種子島へ伝来した鉄砲が、戦国時代の日本において急速に普及し、合戦のあり方を大きく変えた主要因として正しいものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 室町幕府が鉄砲の製造を独占し、全国の大名に無償で配布したため
2. ポルトガル人から輸入するのみで、国内の需要をすべてまかなうことができたため
3. 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため
4. キリスト教の布教を許可した大名に対してのみ、スペインが鉄砲を贈呈したため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 天皇を中心とした中央集権的な政治体制が、全国的な経済基準を統一するまでには至って いなかったこと	16世紀後半の日本では、武田氏などの有力な戦国大名が独自の領国支配を行っていました。甲斐や信濃で「甲州ます」という独自の基準が使われていた事実は、長さや重さ、容積の基準である「度量衡」が全国で統一されていなかったことを示しています。これは、当時の天皇や室町幕府といった中央の権力が、全国的な経済基準を強制できるほどの中央集権的な政治体制を確立できていなかったという背景があります。その後、織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程で、次第に度量衡の統一が進められていくことになります。
問2	答え 2 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問3	答え 1 分国法	戦国時代、守護大名に代わって実力で領地を支配した戦国大名は、家臣の統制や領国内の治安維持、年貢の徴収などを目的として独自の法を定めました。これは大名の支配権が及ぶ「分国（領国）」にのみ適用されたため、このように呼ばれます。選択肢にある御成敗式目は鎌倉時代、墾田永年私財法は奈良時代、公事方御定書は江戸時代のもです。
問4	答え 4 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問5	答え 2 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。	分国法は、駿河国の「今川仮名目録」や甲斐国の「甲州法度之次第」のように、各戦国大名がそれぞれの領国の維持・発展のために独自に定めた法典です。幕府による全国一律の支配が及ばなくなった時代において、各大名が家臣の統制や年貢の確保、領民の管理などを目的として作成しました。他の選択肢にある大宝律令や御成敗式目、刀狩令とは時代や制定主体が異なります。
問6	答え 4 身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。	下剋上は、室町時代末期から戦国時代にかけて全国的に見られた現象です。守護代が守護を追放したり、家臣が主君から実権を奪ったりするなど、家柄や伝統よりも個人の実力が重視されるようになりました。これにより、各地で戦国大名が台頭し、独自の領国支配を行うきっかけとなりました。
問7	答え 1 下剋上	応仁の乱以降、幕府や守護の権威が衰えたことで、家柄よりも軍勢力や政治力といった実力が重視されるようになりました。家臣が主君を倒して実権を握るといったこの動きは、戦国時代の社会を象徴する現象です。選択肢にある「尊王攘夷」は幕末の思想、「一向一揆」は浄土真宗の門徒らによる抵抗運動を指します。
問8	答え 3 火縄銃をポルトガル人が伝えた。	1543年に種子島へ漂着したポルトガル人によって、火縄銃（鉄砲）が日本に初めて伝えられました。当時の種子島の領主はこれを買取り、刀鍛冶に命じて仕組みを研究させ、国産化を成功させました。これがきっかけとなり、鉄砲は瞬間に日本全国の戦国大名の間へ普及することとなりました。
問9	答え 4 宗教改革	16世紀のヨーロッパでは、カトリック教会が免許符（贖宥状）を販売するなど腐敗が進んでいました。これに対しドイツのルターは「九十五ヶ条の論題」を発表して教会を批判し、信仰のよりどころを教会ではなく聖書に求めるべきだと説きました。この動きはヨーロッパ全土に広がり、プロテスタントと呼ばれる新しい派閥が生まれるきっかけとなりました。
問10	答え 2 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。	戦国時代は常に他国からの侵略のリスクがあったため、大名にとって家臣団の結束は死活問題でした。家臣同士が私的な遺恨で争い、戦力が削られることを防ぐため、分国法を通じて「争いの理由は問わず、両者を処罰する」という厳しいルールを課し、紛争の解決は大名による裁判に委ねさせることで、主君としての統制力を強めようとしたのです。
問11	答え 2 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問12	答え 3 カトリック — イエズス会	日本に最初に伝わったキリスト教は、ローマ教皇を中心とするカトリック教会の一派である「イエズス会」によるものでした。当時、ヨーロッパでは宗教改革によって新教（プロテスタント）が勢力を伸ばしており、これに危機感を抱いた旧教（カトリック）側のイエズス会が、アジアなどへの布教を通じて信者を増やそうとしていました。
問13	答え 1 ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。	鉄砲が伝来した1543年は16世紀にあたります。この時期、ドイツではルターによる宗教改革が進んでいました。他の選択肢について、イスラム教の創始は7世紀、モンゴル帝国の建国は13世紀初頭、アメリカ南北戦争は19世紀の出来事であり、いずれも鉄砲伝来の時期とは重なりません。
問14	答え 3 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため	種子島に伝来した鉄砲は、当時の優れた鍛冶技術を持っていた堺（大阪府）や国友（滋賀県）の職人たちの手によって、すぐに構造が研究され「国内生産」が行われるようになりました。これにより、高価な輸入品に頼ることなく大量の鉄砲を確保することが可能になり、戦国大名の間に広く普及しました。輸入のみに依存していたとする説は、当時の広範な普及の実態とは異なります。